



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects BI Suite

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

新機能

目次

1	このドキュメントについて.....	3
2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.....	4
3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.	5
4	インフォメーションデザインツール.....	9
5	データアクセス.....	10
6	SAP Crystal Reports.	11

1 このドキュメントについて

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.3 SP4 の新機能ガイドには、旧リリースから SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite に加えられた機能と改良点の概要が記載されています。新機能を使い始めるために利用できる製品のドキュメンテーションが記載されています。

2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

Business Intelligence ラウンチパッド

- **任意のイベントオプション**
 - スケジュール時に**待機するイベント**から**任意のイベント**を選択するオプションが導入されました。これにより、すべてのイベントを待機するのではなく、待機する複数のイベントから選択したイベントがトリガされたときにスケジュールを実行できます。
- **BI コンテンツの分類の適用**
 - 適切な秘密度ラベルを選択して、コンテンツの**秘密度**に基づいて BI ドキュメント (Web Intelligence/ Crystal Reports) を分類することができます。たとえば、ドキュメントを "機密" や "社外秘" などとして分類することができます。
この機能は、**情報分類設定**を有効化し、Microsoft Azure Information Protection プラットフォームの組織ポリシーサーバの詳細を使用して設定すると、使用可能になります。
デフォルトの機能ではないため、有効化するには、管理者が**情報分類設定**アプリケーションを有効化する必要があります。
- **BI 受信ボックスのユーザエクスペリエンス**
 - BI 受信ボックスのユーザエクスペリエンスが、従来の BI ラウンチパッドのユーザエクスペリエンスと一致するように拡張されました。

サーバおよびインストール

systemd スクリプト

- UNIX プラットフォームの BI プラットフォームでは、BI プロセスをシステムサービスの一部として組み込むための `systemd` スクリプトの使用がサポートされるようになりました。このスクリプトは、既存の `init.d` スクリプトを置き換えます。
- **Enterprise 認証の新しい必須パスワード基準**
 - Enterprise 認証のパスワード基準がさらに拡張されました。管理者は、以下を設定できるようになりました。
 - 管理者は、パスワードに使用すべきではない制限された文字列を定義できるようになりました。
 - 管理者は、非アクティブ状態によるパスワード無効化までの日数を定義できるようになりました。
 - また、初期パスワードが変更されない場合にパスワードが無効化されるまでの日数を定義することもできます。

3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

データモード

- **キューブの統合**
 - 次の新しい結合演算子が使用可能: 左外部結合 (交差なし)、完全結合、完全結合 (交差なし)、内部結合。
 - 次の新しい結合演算子の導入: 左外部結合 (交差なし)、完全結合、完全結合 (交差なし)、内部結合。
 - 仮想キューブで、親オブジェクトおよびデータセットをコピーする、単一の親がサポートされるようになりました。
 - 柔軟性の向上: 仮想キューブの作成時に、2 つ以上のキューブが同時に統合されます。
 - **キーの編集**ダイアログボックスを再設計し、ユーザビリティが向上しました。
- **キューブの非表示**: キューブを明示的に非表示にすることができます。
- **オブジェクトの非表示**: オブジェクトを明示的に非表示にすることができます。
- Web Intelligence リッチクライアントの場合、または HTTPS を使用して接続している場合は、データセットビューから行、列、またはブロックをコピーして、他のツールに貼り付けることができます。
- 変換がオブジェクトに適用されると、このオブジェクトとそのキューブの横にアイコンが表示されます。
- ドキュメントを保存すると、ユーザの閲覧ステータスも保存されます。

クエリ

- 別の Web Intelligence ドキュメントをデータソースとしてクエリを作成する場合、そのドキュメントも最新表示するように要求できます。このドキュメントにプロンプトがある場合は、最新表示時にそのプロンプトに回答できます。
- データソースの名前とパスは、ユーザインタフェースでは次のような別々の場所に表示されます: **高度な最新表示**および**消去**ダイアログボックス、サイドパネルなど。
- 直接アクセスを使用して SAP Datasphere でクエリを作成できます。詳細については、[SAP Datasphere アーティファクトでのクエリの作成](#)を参照してください。
- Excel、テキストまたは CSV ファイルに基づいてクエリを作成する場合、そのファイルを BI プラットフォームリポジトリに直接アップロードできます。詳細については、[Excel、テキストファイル、および Google シートにおけるクエリの作成](#)を参照してください。
- 読み取りモードでは、最新表示するクエリを選択できます。詳細については、[最新表示のための個別クエリのフラグ設定](#)を参照してください。
- SAP BW、SAP HANA、または SAP Datasphere でクエリを作成するときに、フィルタで詳細を使用できます。

プロンプト

- オプションのプロンプトをプロンプトのグループに収集できます。[プロンプトの管理](#)
- ドキュメントのスケジュール時に、ドキュメントからプロンプトの回答を取得するよう選択することができます。
- プロンプトのヒントの表示と非表示を切り替えることができます。

レポートिंग

- 条件に応じて垂直テーブルの列または水平テーブルの行を非表示にすることができます。詳細については、[行または列の非表示](#)を参照してください。
 - プレゼンテーションモードでヘッダを固定することができます。
 - 読み取りモードでは、以下のことができます。
 - チャートの最大化時に、ナビゲーションウィンドウを使用してチャート内を移動
 - カスタム要素の最大化
- 詳細については、[読み取りモードでのチャート要素の最大化](#)を参照してください。

表示の書式設定

- オブジェクトレベルで表示書式を定義することができます。
- コンパクト表示と通貨表示、またはタイムゾーン変換用の新しいトークンを使用して、カスタム書式を作成することができます。
- カスタム書式を明示的に削除または割り当て解除することができます。

詳細については、次を参照してください: [数値と日付の書式設定](#)を参照してください。

式言語

以下の新しい関数が追加されました。

データプロバイダ関数:

- [DataSourceDescription](#)
- [DataSourceLocationType](#)
- [DataSourcePath](#)
- [DataSourceParentFolder](#)
- [DataSourceName](#)
- [QueryName](#)

以下に対する新しいパラメータをサポート:

- [UserResponse](#)

その他の関数:

- [ClosingPeriod](#)
- [CustomProperties](#)
- [CustomPropertyValue](#)
- [OpeningPeriod](#)
- [ParallelPeriod](#)
- [PeriodToDate](#)

ハイパーリンク

- Web Intelligence で使用される URL は、CMC で明示的に許可されている必要があります。
- ドキュメント内リンクでは、スライダ、ダブルスライダ、およびスピンボタン入力コントロールの値を設定できます。 [リンク](#)
- カスタムプロパティは、OpenDocument URL を介して渡すことができます。
- セルのハイパーリンクをコピーすることができます。

ユーザビリティ

- Web Intelligence リッチクライアントの場合、または HTTPS を使用して接続している場合は、テーブルまたはグラフをコピーして、他のツールに貼り付けることができます。
- オブジェクトが別のオブジェクトの式で使用されているかどうかを検索できます。
- コンテンツのすべて展開とすべて折りたたみは、オブジェクト一覧、式エディタ、レポート構造などで使用できます。
- 変数、参照、およびカレンダーを同時に複数選択して削除することができます。
- 保存されていないドキュメントを閉じようとする、まず保存するように提案されます。
- 読み取りモードでは、消えるツールバーを固定して画面に表示したままにすることができます。
- 相対位置を定義するときに、レポート要素の一覧はアルファベット順に並べ替えられます。
- ドキュメントのナビゲーションマップでは、セクションおよびサブセクションがツリー表示で示されます。
- ドキュメントのレポート構造では、特定のレポート要素を名前で検索するか、アルファベット順に並べ替えることができます。
- ドキュメントのプロパティには、すべてのモードで同じプロパティが表示されます。特に、ドキュメントの ID と CUID が表示されます。
- フィルタバーでプロンプトまたは入力コントロールにマウスのポインタを合わせると、選択した値を含むツールヒントが開きます。
- ツールバーで対応する挿入ボタンをクリックして、テーブル、チャート、またはセルを挿入することができます。
- CMC で定義できるカスタマイズによって、新しいユーザインタフェース要素をユーザインタフェースで非表示にすることができます。

- カスタム要素のプロパティのカテゴリは、折りたたんだり、展開したりすることができます。
- カスタム要素のコンテキストメニューには、そのプロパティへのショートカットが含まれています。
- CMC で Web Intelligence トグルを設定できます。

Web Intelligence OData

- Web Intelligence ドキュメントからデータを取得する場合、ドキュメントを最新表示できます。
- ドキュメントを最新表示するときに、プロンプトに回答できます。

詳細については、[要求の指定](#)を参照してください。

Web Intelligence JavaScript API

- 以下のために新しいメソッドが導入されました。
 - ドキュメント入力コントロール
 - オブジェクトの値の一覧。
 - イベントバスを通じた通信。
- ドキュメントの保存をキャッチするための新しいイベントが導入されました。

詳細については、[Web Intelligence JavaScript Reference 4.3 SP4](#) を参照してください。

4 インフォメーションデザインツール

インフォメーションデザインツールの 4.3 SP4 リリースでは、以下の新機能を使用できます。

- データファンデーションで中立結合の使用を拒否することができます。
- UNV ユニバースを UNIX ユニバースに変換すると、中立結合の使用はデフォルトで拒否されます。
- UNV ユニバースのセットが UNIX に変換されるときに、1つのユニバースの変換に失敗しても、他のユニバースを変換するためのユーザ確認は必要ありません。
- ビジネスレイヤをエクスポートするときに、トランスレーションマネジメントツールで使用するオブジェクト ID をエクスポートできます。
- データファンデーション間でコピーして貼り付けるときに、テーブルの位置と表示状態が保持されます。

セマンティックレイヤ **Java SDK**

- 新しい関数を使用して、オブジェクトのデータベース形式を取得および設定できます。
- 新しい関数を使用して、中立結合を許可または禁止できます。

5 データアクセス

SAP BusinessObjects BI プラットフォームのバージョン 4.3 SP04 では、以下のデータベース接続がサポートされます。

- Databricks
- Google Cloud SQL

① 注記

これらのデータベースでは、複数ソースユニバースはサポートされていません。

6 SAP Crystal Reports

Crystal Reports 2020 でのリレーショナル Unx ユニバースのサポート

Crystal Reports 2020 (CR 2020) SP04 以降、新しい "ユニバース (Unx)" ドライバを使用できるようになりました。リレーショナルデータベース上に構築された Unx ユニバースを使用できます。CR 2020 デザイナでは、CR2020 Unx レポートのユニバースクエリを作成または変更するための新しい Unx クエリパネルも利用できます。その他の CR2020 レポートと同様に、これらの新しい CR2020 Unx レポートは、BI プラットフォームで保存、表示、またはスケジュールすることができます。

詳細については、[Reporting on Universes](#) を参照してください。既知の制限および使用のヒントについては、[3371775](#) を参照してください。

OpenDocument および CMC の Crystal Reports 2020 Fiori ビューア

Crystal Reports 2020 (CR2020) Fiori ビューアを OpenDocument で使用できるようになりました。ユーザは、ユーザ基本設定または URL パラメータを使用して Fiori ビューアまたはクラシック Web ビューアを選択することができます。詳細については、[sViewer](#) を参照してください。

CR2020 Fiori ビューアをセントラル管理コンソール (CMC) でも使用できるようになりました。CMC のユーザ基本設定にもビューア選択オプションが追加されました。

Crystal Reports 2020 Fiori ビューア内のお気に入り

さらに、CR2020 Fiori ビューアのツールバーでクリックするだけで、Crystal Reports 2020 (CR2020) レポートを簡単にお気に入りに設定したり、お気に入りから削除したりできるようになりました。

パスワードで保護された PDF にエクスポート

ユーザは、パスワードで保護された PDF を Crystal Reports 2020 Fiori ビューアからエクスポートできるようになりました。さらに、ユーザはパスワードで保護された PDF に追加の制限 (コピーテキストの無効化や印刷の無効化など) を設定することができます。

セキュリティおよびプラットフォームの更新



さまざまなセキュリティ更新 (サードパーティコンポーネントやオープンソースコンポーネントの更新を含む) が適用されました。

新しいプラットフォームバージョンおよびデータソースバージョンが認定されました。詳細については、https://support.sap.com/content/dam/launchpad/en_us/pam/pam-essentials/SBOP_BI_43.pdf を参照してください。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。